

## 2 共通教育・連携教育

### 1) 教育活動

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・目標
スタートアップ演習 ◎原 俊彦 上 遠野 敏 城 間 祥之 杉 哲夫 田 中 敏明 中原 宏 細 谷 多聞 那 須 聖 松 井 美穂 三 谷 篤史 山 田 良 加 藤 登紀子 河 野 總子 スーデイ神崎和代 松 浦 和代 守 村 洋 吉 川 由希子 菅 原 美樹 高 室 典子 新 納 美美 村 松 真澄 保 田 玲子	演習 60時間	1年次 前期	「デザインと看護の連携」をテーマに、大講義室での合同講義や少人数編成によるグループ活動を通じ、文献講読、図書館の活用、レポート・論文作成、グループ討論など、主体的に勉学・研究を進めるための基礎的学習法、課題解決の手法などを習得するとともに、調査・分析プロジェクトを通じ、4年間の学生生活や将来の職業生活への展望を持ってもらうためのコア科目。
哲学と倫理 ★山田 友幸	講義 30時間	1年次 前期	知識とは何か、われわれはどのようなことを知ることが出来るか、知ることとはどのようにして成り立つのかを主題に、具体例を取り上げてじっくり考える哲学的思考の体験レッスンを目指す。
環境を考える 矢部 和夫	講義 30時間	1年次 前期	地球環境問題の根源となっているのは、都市領域が人間の生存環境を作る自然領域を蚕食していったことである。また、地球は地域の集合体であると考えられ、その保全はそれぞれの地域で環境を保全することで達成される。このような視点から、地域環境保全の意義や地球環境の諸問題を取り上げ、その対策について、人間の暮らし、文化との関連で考える。
人間関係を考える ★椿 武愛子	講義 30時間	1年次 前期	挨拶から始まる対人関係と常識的なコミュニケーションが望まれているにもかかわらず、なかなかうまく表現できない人が多いといわれている。同じ職場に長く勤務できないのは、仕事がいやだからではなく、人間関係のトラブルからが多い。我々の日常生活は、家庭、学校、職場などを中心として営まれている。そのいずれにも、必ず他者とかわらなければならない。そのためにも、まず、相手を知り、相手を認めることがいかに大切かを知り、コミュニケーションを上手にとるため、そして楽しい生き方をするための人間関係をつくることを目的とする。
現代社会と家族 原 俊彦	講義 30時間	1年次 前期	日常当たり前の存在のように考えられがちな家族は、その時代により、社会により、また個人によって、その意味や位置付けが異なる。現代においては、社会構造の複雑化、グローバル化等が進んでおり、家族のあり方や個人と家族のかかわりも大きく変化している。ここでは、現代の社会的な問題と、家族・地域社会の関係について学び、日本の家族が抱える課題について考察する。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・目標
札幌を学ぶ 原 俊彦	講義 30時間	1年次 前期	さまざまな分野で活躍している方をゲストスピーカーとしてお招きし、札幌の地域特性や、道都としての札幌と北海道各地の関係について、お話をお聞きしともに考える。科目担当の専任教員は、ゲストスピーカーの紹介、学生への情報提供と評価を担当する。
英語 I A ★大野 拓恵 ★水島 梨紗 ★亘理 陽一	演習 30時間	1年次 前期	高校までに習得した英語の基礎的な読解力をさらに発展させることを目標とする。ここでは様々なトピックに関する比較的平易な英文を読みながら、英文読解力、語彙力の向上を目指す。進度によっては、英文の新聞・雑誌記事などを副教材とし英語力の更なるレベルアップをはかる。
英語 I B 松井 美穂 ★白土 淳子 ★向井 千和子	演習 30時間	1年次 前期	高校までに習得した文法を再確認するとともに、英文の構造を理解しながら、英語でコミュニケーションをするために必要な作文力を身に付ける。ここではセンテンス・レベルから始まり、一定の長文（前期ではパラグラフ程度の長さの文）を表現できるレベルの英作文力の習得を目標とする。
英語 I C ★マッドヴァ セザンジ ★山田 パトリシア	演習 30時間	1年次 前期	英語による口頭でのコミュニケーション能力の基礎習得を目標とする。伝えたいことを正確に英語で表現する力を身に付けるとともに、英語で自分の意見を発信する能力を養う。CD等の教材を使用し、リスニング力の向上に努めながら、(日常の英会話に必要な表現力についても学ぶ一方) 英語でのプレゼンテーション能力を身に付けることを主たる目的とする。
日本語表現法 ★千葉 孝一	演習 30時間	1年次 前期	まず、言葉とは何かについて多角的に考えるための基礎概念を学ぶ。その上で、さまざまな事例を通じて適切な日本語表現とは何かを考え、自らの意図する所を相手にわかりやすく、的確に伝える文章力を培う。
基礎カウンセリング ★小坂 守孝	演習 30時間	1年次 前期	カウンセリングは、適応上の課題を有する個人が、専門家の援助を受け課題解決を図る過程である。ここではロールプレイ等を通じ、カウンセリングの基礎を学ぶ。併せて、カウンセリングが必要となる心理的な状況や症状、また、カウンセラーの役割について理解を深める。
情報リテラシー I ◎原 俊彦 大淵 一博	演習 30時間	1年次 前期	これから大学で勉強をしてゆく上でも、また社会に出て働く上でもパーソナルコンピュータを日常のコミュニケーション・ツールとして自由自在に使いこなすことが求められます。このため情報リテラシー I ではコンピュータの仕組みや操作方法、データの保存方法などについて学ぶとともに日常業務に不可欠なワープロ・表計算・プレゼンテーションなどのアプリケーション操作の基礎や自在に使いこなすための工夫・テクニックについて学びます。
宗教と思想 ★堀 雅彦	講義 30時間	1年次 後期	宗教と思想はそれぞれ、「信じること」と「考えること」として、互いに異質な営みであるように見えます。実際、「宗教を信じるのは自分の頭で考えることの放棄だ!」と主張する人も珍しくありません。しかし、そのような主張に賛成の手を挙げる前に、様々な宗教的伝統のただ中で生まれ、継承されてきたものの見方に、目を向けてみませんか。そこには人間や社会、自然などをめぐる広い意味での「思想」があり、私たち自身のものの見方に反省を迫るような要素が少なからずあるはずです。この講義では、そのような「宗教の中の思想」の輪郭を捉えるためのヒントを、様々な角度から示したいと思います。
芸術と文化 ★望月 由美子	講義 30時間	1年次 後期	「人と芸術」とのかかわりについて学び、考察する。さまざまな芸術文化活動の事例を通して、「美とは何か」、「芸術とは何か」を探求する。また、絵画や彫刻をはじめとするさまざまな芸術作品や著名な作者を通して、芸術が社会や人間に与える影響についても考察する。

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成20年度入学者選抜結果

附属図書館

役員会  
経営審議会  
及び教育  
研究審議会

学内運営の概要

資料

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・目標
心のしくみ ★橋本 道子	講義 30時間	1年次 後期	日常生活行動に見られる人間の行動を理解するに当たって、それらの行動をコントロールしているさまざまなシステムや現象について、心理学的に理解する。また、人間の心を科学的に研究した知見と現代心理学の各分野を概観し、人間の心と行動についての基礎を学ぶ。
体のしくみ 田中 敏明	講義 30時間	1年次 後期	体のしくみについて運動・動作を中心に学習し、ヒトの正常状態について学ぶ。具体的には、正常な身体運動を運動学的分析の視点から考察する。また、講義・実習等を通じて筋や関節が運動・動作にどのようにかかわっているかについて、生体の構造と機能との関連から理解を深める。 到達目標 1 生体の構造と機能を運動学的観点から理解する。 2 身体運動を理解するための運動学的分析方法を説明できる。 3 動作分析方法について説明できる。 4 歩行、姿勢に関して運動学的な見方を説明できる。 5 体表解剖の基礎を理解する。
現代社会と経済 ★近藤 公彦	講義 30時間	1年次 後期	現代社会のさまざまな経済活動を理解するために、経済学や経営学の基本的な知識を習得する。また、身近な経済トピックスなどを通じて、経済のグローバル化、情報化の現状を概観する。我々は普段、消費者としてモノやサービスを買って、利用している。コンビニでお弁当を買って、ファッション専門店で購入し、シネマコンプレックスで映画を鑑賞し、携帯電話を使っている。一方、売り手である企業は、そうした製品やサービスを消費者に提供することで利益を上げる。その過程で企業は、消費者の好みを探り、彼らを満足させられる製品・サービスの開発に努め、ライバル製品との競争にどのように勝つかを常に考えている。この講義では、社会の経済主体の中心である企業の「マーケティング」活動に焦点を当て、その理解を通じて現代の社会や経済を見る眼を養う。具体的には、企業戦略の基本的な考え方をマーケティングの視点から提供し、具体的な事例を多く交えながら説明するとともに、適宜、テーマに則したビデオを見たり、記事を読み、ディスカッションやレポートを通じてマーケティングの理解を深める。
統計の世界 原 俊彦	講義 30時間	1年次 後期	さまざまなデータの分析を行うための基礎となる統計学的な考え方や基本的な手法を理解・習得することを目標とする。このため、表計算ソフトを用いてデータを加工し、必要な情報を探り出すための簡単な統計処理方法を学ぶ。また、データに基づいて物事を考える力を養う。
英語ⅡA ★大野 拓恵 ★水島 梨紗 ★亘理 陽一	演習 30時間	1年次 後期	「英語ⅠA」で培った読解力をさらにレベルアップし、アカデミック・スタディに必要な英文読解力の充実を目指す。さまざまな英文について、正確かつ確に内容を理解する訓練を行うとともに、平易な長文の大意を短時間で把握する速読、パラグラフ・リーディングの練習も行う。また、併せて辞書を使用せずに一定レベルの英文を読み取れる語彙力も身に付ける。
英語ⅡB 松井 美穂 ★白土 淳子 ★向井 千和子	演習 30時間	1年次 後期	「英語ⅠB」で培った作文力をもとに、英語で自分の考えや意見を論理的に表現できる力や研究レポート等を英語で表現できる力を身に付ける。英文の文章構成力を習得し、最終的にはエッセイ・ライティングレベルの長文を書く技術を身に付けることを目指す。
英語ⅡC ★マammadヴァ セヴァンジ ★山田 バトリシア	演習 30時間	1年次 後期	「英語ⅠC」で培ったスピーキング力、リスニング力、プレゼンテーション能力をさらに向上させ、一定レベルの内容を英語で受信、発信する力を養う。ネイティブの会話や説明内容を正確に理解できるように、CD等の教材を活用し、リスニング力を身に付けるとともに、英語で自らの考えや意見を論理的に発信できることを目指す。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・目標
プレゼンテーション ◎吉田 和夫 齋藤 利明 原 俊彦	演習 30時間	1年次 後期	今日の社会では、文書・画像・音声などさまざまな表現手段を組み合わせ、情報を効果的に伝達することが重要になっている。ここでは、情報を伝達する相手や目的に合った情報の収集や編集方法を学ぶとともに、プレゼンテーション用のソフトを活用し、多様な表現手段と説得力あるプレゼンテーション技術を習得する。
対人コミュニケーション ★町田 佳世子	演習 30時間	1年次 後期	私たちはコミュニケーションなしに社会生活を送ることはできない。コミュニケーションの仕組みを知ることは、よりよいコミュニケーションの担い手への第一歩である。この授業では、心理学、社会学、言語学、社会心理学などの研究成果を基に、コミュニケーションという現象にアプローチする。
手話 ★高橋 淨	演習 30時間	1年次 後期	このクラスでは、実技指導などを通し、日本人ろう者のコミュニケーション手段の1つである「日本手話」の基礎を学びます。また、ろう者及びろうをめぐむ問題についても考えてみたいと思います。
情報リテラシーⅡ ◎原 俊彦 大淵 一博	演習 30時間	1年次 後期	これから大学で勉強をしてゆく上でも、また社会に出て働く上でもパーソナルコンピュータを日常のコミュニケーション・ツールとして自由自在に使いこなすことが求められます。このため情報リテラシーⅡでは、インターネットを通じ、さまざまなデータベースから情報を的確に収集・検索する方法を学ぶとともに、情報の加工やホームページの作成などを通じ、自ら情報発信する技術を身に付けます。またセキュリティの問題や個人情報の扱い方などについても学びます。
ジェンダーを考える ★笹谷 春美	講義 30時間	2年次 前期	人権問題やジェンダーの基本的な考え方について、基礎的な知識を習得する。また、ジェンダーを生み出す社会的な構造や、最近のジェンダーの課題について、とりわけ、看護・介護の領域に焦点をあてて考察する。
現代社会と国際関係 ★佐々木 政文	講義 30時間	2年次 前期	私たちは今、海外のニュースが瞬時に伝わってくる時代に生きています。毎日のように飛び込んでくるニュースも「なぜ？」を考えなければ、関心を持ち得ないし真相も見えません。この授業では、新聞などのニュースを基に「なぜ？」を伝えたいと思います。東アジアを軸に、「現代社会と国際関係」をともに考えてみませんか。
実践英語A 松井 美穂 ★水島 梨紗	演習 30時間	2年次 前期	英語Ⅰ、英語Ⅱ（各A、B、C）で学んだことを基礎に、デザイン・看護の各専門に関する英語図書の講読を通じ専門英語に慣れ、語彙を習得し、最終的には英文で書かれた論文を読んだり、また、英文で論文を書くことができるレベルの語学力の習得を目指す。
中国語 ★照井 はるみ	演習 30時間	2年次 前期	中国語を学ぶ上での基礎として、文字・発音・文法・会話等を習得するとともに、中国の歴史、文化等についても触れ、中国に対する理解を深める。15回終了した時点で中国語の自己紹介文が書け、自分の言葉として発表できるようになることを目指す。語学の学習を通して近くて遠い中国を実感し、国際社会に日本の考え方や文化などを発信していくための第一歩とする。
ロシア語 ★ジダーフ ウラジーミル	演習 30時間	2年次 前期	ロシア語を学ぶ上での基礎として、文字・発音・文法・会話等を習得するとともに、ロシアの歴史、文化等についても触れ、ロシアに対する理解を深める。
グループ・ダイナミクス ★鹿内 啓子	演習 30時間	2年次 前期	人は家族、学校、職場等さまざまなグループの中で、お互いに影響を与え合い、行動を変化させながら生活しており、そこにおいてはグループ・ダイナミクス（集団力学）が作用している。この授業では、人がどのように他者から影響されるのかを身の回りの事例から学び、集団における人間の心理や行動についての基礎的な理解を深める。またこのような影響力の要因から集団が持つ機能や意思決定の仕組みなどについて学んでいく。

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成20年度入学者選抜結果

附属図書館

役員会  
経営審議会  
及び教育  
研究審議会

学内運営の概要

資料

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・目標
教育を考える ★小内 透	講義 30時間	2年次 後期	家庭教育、学校教育、生涯教育などの教育が人間や人間形成にとってなぜ必要なのかといった教育の意義や、人間が教育に求めたものについて歴史の変遷から学ぶ。また、教育問題や教育が抱える課題といった日本の教育の現状について考える。
健康とスポーツ ★服部 正明	講義 30時間	2年次 後期	多くの日本人の生活は、栄養過多の一方、運動が不足しており、ストレスの解消や発散も十分になされない状態にある。また、こうしたことが、体力の低下やさまざまな健康障害を引き起こす原因となっており、スポーツの必要性がますます増加している。ここではスポーツによる健康維持と体力づくりのための知識の習得を目的とする。
実践英語B ★山田 パトリシア	演習 30時間	2年次 後期	英語Ⅰ、英語Ⅱ（各A、B、C）で学んだことを基礎に、専門に関する事柄を英語でプレゼンテーションでき、また会議等において英語でディスカッション等ができるレベルの語学力の習得を目指す。授業はそれぞれの学部に分かれて行います。
韓国語 ★松田 由紀	演習 30時間	2年次 後期	韓国語を学ぶ上での基礎として、文字・発音・文法・会話等を習得するとともに、韓国の歴史、文化等についても触れ、韓国に対する理解を深める。

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

★印：非常勤講師